

## 金子みすゞの童謡における自然への視点

大瀧 亜沙美

本論文は金子みすゞの作品を精読し、みすゞの自然への視点について考察するものである。

まずみすゞの代表的な作品を紹介し、その表現技法や、みすゞが詩に込めた思いを、先行研究を踏まえて分析する。表現技法では、みすゞが自然を一つの存在として捉えている事を擬人化の手法を中心に調べる。次にみすゞの作品とその師とされる西条八十の詩との比較を通じて、両者の共通点を考察する。また、北原白秋から受けた影響も検証する。合わせて、戦後みすゞの詩を再発見した現代詩壇におけるみすゞ再評価の原因を考える。そのうえで、みすゞの作品を特徴づける最大のポイントとして、みすゞ作品に見られる自然側と人間側の立場の混一で独特な融合について考察した。みすゞの自然への眼差しはいささかも理屈に偏ることなく、弱小者に分類されがちなものを人間同様の「命」として扱うみすゞの優しさが滲み出ている。

みすゞの詩は一度読めば心に強い印象が残り、彼女の思いを理解することによって我々は自然と人間の関係に対して新しい視点を獲得し、よりやさしい気持ちで自然に接することができるようになるであろう。